

# 池田市埋蔵文化財発掘調査概報 I

1995年度

1996年3月

池田市教育委員会

## 序 文

池田市は大阪府の北西部に位置し、五月山の緑、猪名川の水の流れに囲まれています。このような自然の豊かな環境の中、人々が先史の時代から営み始めています。

池田は、古くから物資集散地として、また、近年は大阪のベットタウンとして開発が進み、大きく発展してまいりました。

しかしながら、このような開発、発展とは裏腹に、我々の祖先が伝え残してきた文化遺産や自然が破壊され、かっての面影がしづぶことができないほど様がわりしてしまったことも事実です。祖先から受け継がれてきた文化遺産を現代生活に反映しつつ、また、後世に伝えて行くことが我々の義務だと考えております。

この報告書は、上述した状況の中、危機に面している埋蔵文化財について、国並びに大阪府の補助を受けて実施した発掘調査の概要報告であります。本書が文化財の理解に通じれば幸いと存じます。

なお、調査の実施にあたっては多くの御指示、御助言をいただいた諸先生並びに関係機関をはじめ、土地所有者、近隣住民の方々には文化財保護に対して格別の御理解と御協力をいただきました。心より感謝と敬意を表し、厚く御礼申し上げます。

平成8年3月

池田市教育委員会

教育長 長江 雄之介

## 宮の前遺跡発掘調査

### はじめに

宮の前遺跡は池田市石橋4丁目、住吉1・2丁目、豊中市螢池北町に広がる旧石器時代から中世に至る複合遺跡である。その場所は、待兼山の丘陵より西方へ発達した標高約30m前後の洪積台地に立地している。この台地は、猪名川によって形成された沖積平野とは約10mの比高差を有する。周辺の遺跡としては、南方に弥生時代中期の方形周溝墓等が検出された豊島南遺跡、弥生土器、須恵器が採取された住吉宮の前遺跡が位置し、西方に高地性集落と考えられる待兼山遺跡、須恵器、瓦を生産した桜井谷古窯跡群が広がり、また、南方に当遺跡と同一の性格を有する螢池北遺跡、5世紀の掘立柱建物跡が検出された螢池東遺跡<sup>1)</sup>、国府型ナイフ形石器が出土した螢池西遺跡<sup>2)</sup>等が挙げられる。

当遺跡は、昭和の初頭に地元の人々により石器や土器などが採取され、遺跡の存在が知られるようになったが、本格的な調査が行われておらず、遺跡の性格等は不明であった。しかし、昭和43、44年の中国縦貫自動車道建設に伴い発掘調査が実施され<sup>3)</sup>、その結果、弥生時代中期



第1図 調査地周辺図

の方形周溝墓、竪穴式住居跡、土壙墓等の他、古墳時代の竪穴式住居跡、古墳跡が検出された。特に、当時検出例が少なかった方形周溝墓が多く検出されたことから、住居域と墓域が同時に把握できる貴重な例として注目を浴びることとなった。また、奈良時代の掘立柱建物跡、井戸、平安時代の掘立柱建物跡等も確認され、弥生時代から中世に及ぶ複合遺跡として認識されるようになった。

その後、大阪府教育委員会、豊中市教育委員会、池田市教育委員会により、マンション等の開発に伴う事前調査で、遺跡の範囲も東西700m、南北900mと拡大している。また、昭和61年度の大坂府教育委員会による調査、平成元年度の豊中市教育委員会による調査で、国府型ナイフ形石器が出土し<sup>4)</sup>、当遺跡が旧石器時代までさかのぼることが判明している。

- 註 (1) 大阪文化財センター『螢池東遺跡現地説明会資料』1992年  
(2) 豊中市教育委員会『摂津豊中 大塚古墳』1987年  
(3) 宮之前遺跡調査会『宮之前遺跡発掘調査概報』1970年  
(4) 豊中市教育委員会『螢池北遺跡現地説明会資料』1989年

#### 参考文献

- 橋高和明編『原始古代の池田』池田市立池田中学校歴史部 1985年  
富田好久「考古学上に現れた池田」『新版池田市史』概説編 1971年

### 1. 宮の前遺跡29次調査

調査地は池田市住吉1丁目263-3に位置する。調査は個人住宅建替に伴い実施されたもので、本調査地は、今までの周辺の調査の結果、遺物包含層の存在が予想されるため、小規模なトレンチ（2m×4m）設定し、調査を実施した。

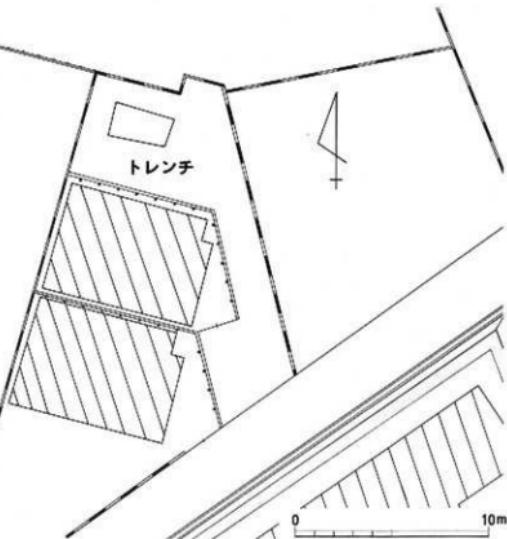
#### 調査の概要

##### 基本層序

層序は4層からなる。第1層は盛土、第2層は耕土、第3層は赤黒色粘質土の遺物包含層、第4層は遺構検出面の黄褐色粘質土の地山である。第3層の遺物包含層からは弥生土器が出土した。

##### 検出遺構

調査区全体からピット6基、土

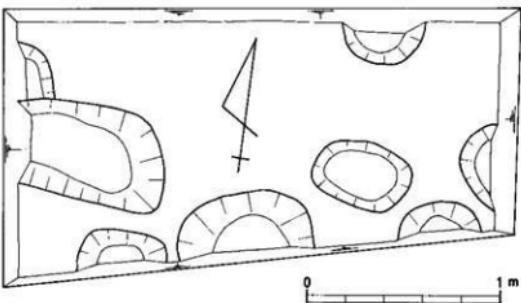


第2図 トレンチ位置図

坑1基を検出したが、それぞれ深さが10cm前後と浅く、また、遺構内からは遺物は検出されなかった。

#### 出土遺物

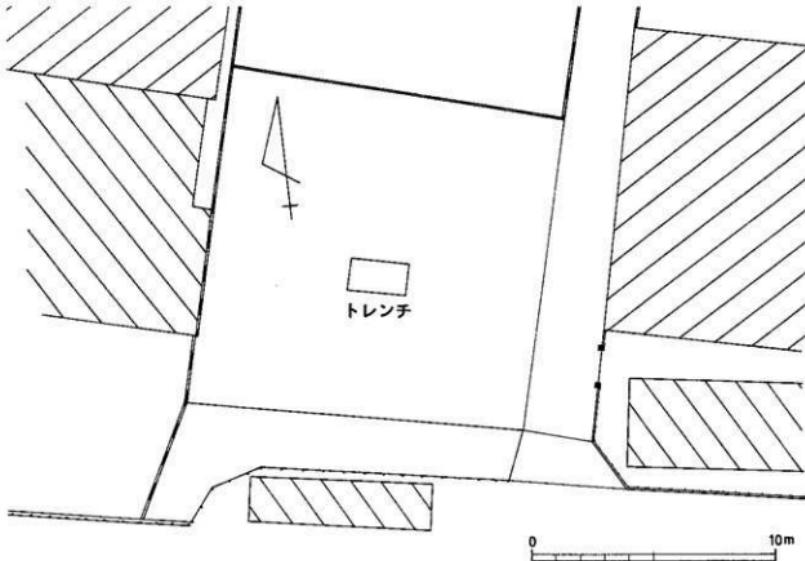
本調査区から出土した遺物は、すべて第3層の遺物包含層からである。遺物はすべて小片で、図化はできなかったが、すべて弥生時代中期に属するものと考えられる。



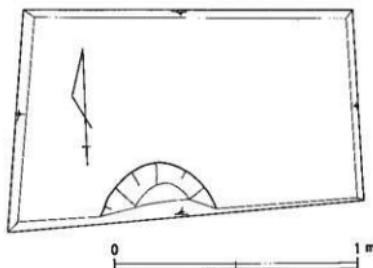
第3図 トレンチ平面図

#### 2. 宮の前遺跡第30次発掘調査

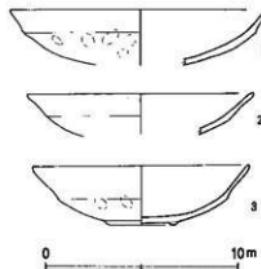
調査地は池田市住吉1丁目1-2に位置する。調査は個人住宅改築に伴い実施されたものである。本調査地は宮の前遺跡が位置する台地の東端に位置し、また、試掘の結果、南側及び東側に向かって地形が傾斜して入るため、発掘調査は調査地の中央部にトレンチ(1.5m×2.5m)を設定し、調査を実施した。



第4図 トレンチ位置図



第5図 トレンチ平面図



第6図 遺物実測図

#### 調査の概要

#### 基本層序

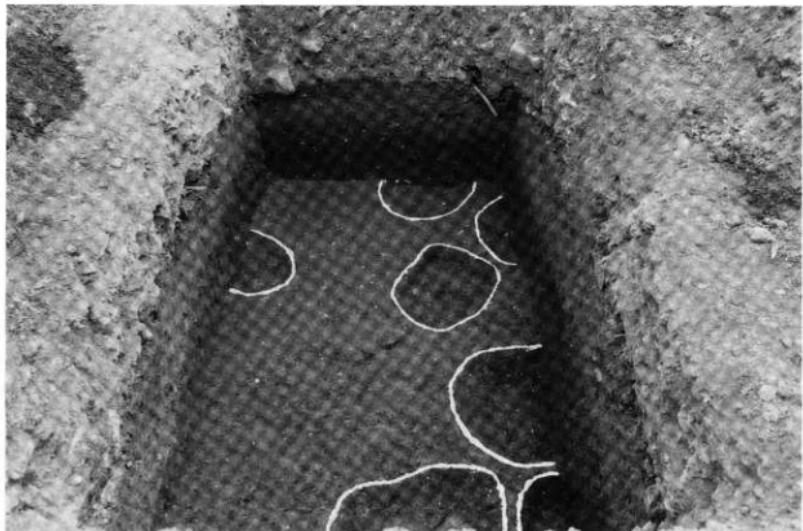
層序は3層からなる。第1層は盛土、第2層は赤黒色粘質土の、第3層は遺構検出面のこぶし大の礫を多く含む黄褐色粘質土の地山である。第2層のからは土師器皿、瓦器、須恵器等が出土した。

#### 検出遺構

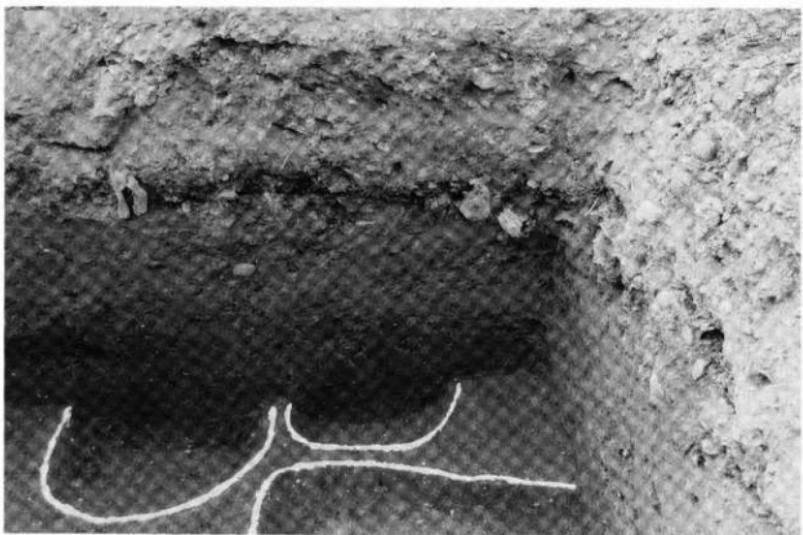
調査区からピット1基を検出した。そのピットは径が35cm、深さが10cmのものであるが出土遺物はなく、時代等ははっきりしない。

#### 出土遺物

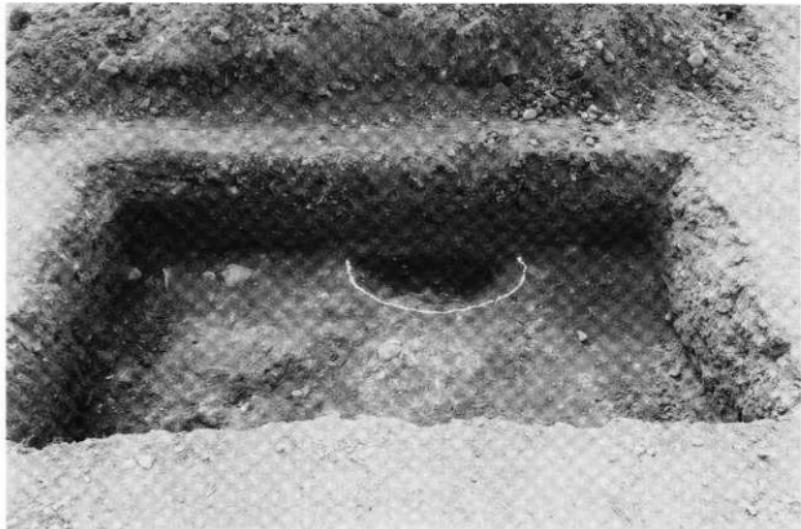
出土遺物はすべて第2層から出土した。1～3は瓦器碗で、復元口径は1が134mm、2は117mm、3は112mmを測る。3点とも調整は外面口縁部はヨコナデ、外面下部はユビオサエが施され、内面はナデである。3の高台は付け高台である。その他に、須恵器等が出土したが図化はできなかった。



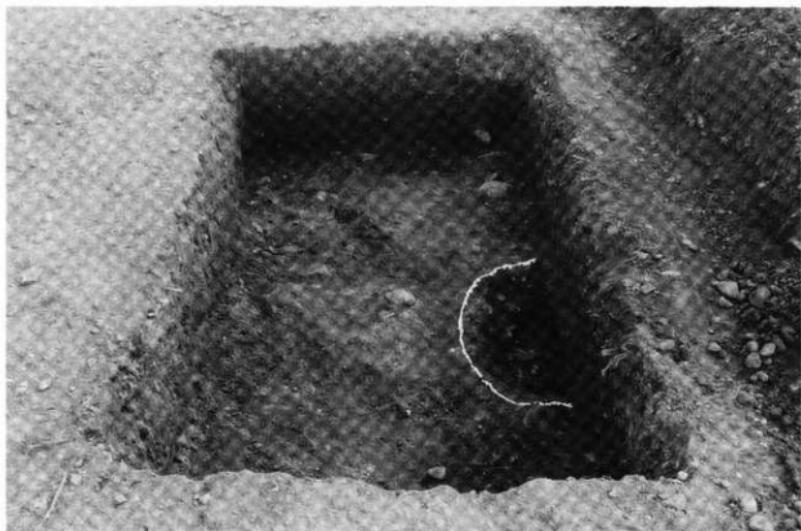
(1) レンチ全景（東から）



(2) レンチ北壁（南から）



(1) トレンチ全景（北から）



(2) トレンチ全景（西から）

報告書抄録

ふりがな	いけだしまいぞうぶんかざいはくつちょうさがいほう						
書名	池田市埋蔵文化財発掘調査概報						
副書名	池田市文化財調査報告第21集						
巻次							
シリーズ名	池田市文化財調査報告						
シリーズ番号	21						
編著者名	中西正和						
編集機関	池田市教育委員会						
所在地	563 大阪府池田市城南1丁目1番1号 ☎0727-52-1111						
発行年月日	1996年3月31日						
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	°°'	°°'		
みやのまえ 宮の前	いけだいいしばし・すみよし 池田市石橋・住吉	272043	一	34度 47分 50秒	135度 26分 50秒	951206 951215	8m <sup>2</sup> 個人住宅新築のための事前調査
みやのまえ 宮の前	いけだいいしばし・すみよし 池田市石橋・住吉	"	一	34度 47分 50秒	135度 26分 50秒	960222 960223	4m <sup>2</sup> 個人住宅増築のための事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
宮の前	集落・古墳	旧石器～中世	柱跡	弥生土器			
宮の前	集落・古墳	旧石器～中世	柱跡	瓦器			

池田市文化財調査報告第21集  
池田市埋蔵文化財発掘調査概報Ⅰ

1995年度  
1996年3月  
発行 池田市教育委員会  
池田市城南1丁目1番1号  
編集 社会教育課 文化財係  
印刷 西村印刷株式会社